

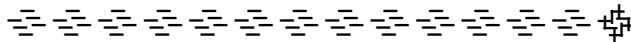
9月19日(月・敬老の日)の午後1時半から、東京都新宿区の明治公園で「さようなら原発9・19集会」が開かれ、5万人の参加者が見込まれています。また今、「脱原発を実現し、自然エネルギー中心の社会を求める全国署名」が取り組まれています。

これらの主催は「さようなら原発1000万人アクション」。内橋克人、大江健三郎、落合恵子、鎌田慧、坂本龍一、澤地久枝、瀬戸内寂聴、辻井喬、鶴見俊輔の各氏を呼びかけ人とする、国民的な広がりをもった集まりです。

また、9月11日から19日までを「9月脱原発アクションウィーク」とし、全国各地でさまざまな取り組みが行なわれます。皆様のご注目とご参加、ご協力をお願いいたします。

社民党は 脱原発の先頭に立ち がんばります

→社民党は8月25日、福島みずほ党首を先頭に、東京のJR有楽町駅前で「さようなら原発1000万人アクション」の街頭宣伝と署名活動に取り組みました。



菅前政権では、福島原発事故を受け、菅前首相の「脱原発依存」宣言、近い将来確実に起こる東海地震で大事故を起こすおそれのある浜岡原発の全基停止、拙速な玄海原発運転再開の見送り、「原子力安全庁」の創設決定など、原発をめくり大きなできごとが相次ぎました。これらの動きは、脱原発を掲げる社民党がかねてから主張し、リードしてきたものです。社民党は、「脱原発アクションプログラム」で提起している「2020年までに原発ゼロ・2050年には自然エネルギー100%に」の目標実現をめざし、全力をあげています。

「さようなら原発1000万人
アクション」にご参加を

社民党

